

# MOVIN'

高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

ISSN 0918-7111

未来へ残す町のデザイン  
高岡吉久 さまのことアートと獅子舞で古い町が目覚める  
**特集**  
北欧のデザイン  
北陸のデザインフェスティバル  
受けつがれるクラフトマンシップ

2004 vol. 13



高岡デザイン情報誌「ムーヴィン」

VOL.13 2004年3月31日発行

発行

高岡市デザイン・工芸センター

〒939-1119 高岡市オフィスパーク5番地  
Tel 0766-62-0520 Fax 0766-62-0521  
<http://www.suncenter.co.jp/takaoka/>  
E-mail [tdcc@suncenter.co.jp](mailto:tdcc@suncenter.co.jp)

企画・編集・印刷

相互企画印刷株式会社

100円 本誌は古紙100%の再生紙を使用しています。

MOVIN' バックナンバープレゼント

ご希望のナンバーがございましたら下記までお申し込みください。各号、先着100名様に無料で差しあげます。なお、送料はご負担いただきます。

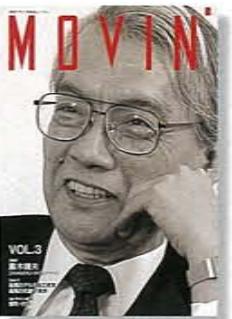
■官製ハガキにてお申し込みください…裏面に、ご住所・氏名・職業・勤務先名を明記のうえ①希望のナンバー(複数号可能)②興味のあった記事③本誌に対するご意見をお書きください。先着100名様に無料進呈いたします。なお、送料は本人負担(宅配便にて着払い)となります。また、各号お一人一冊とさせていただきます(1号・2号は在庫がありませんのでご了承ください)。※締切/平成16年8月31日消印有効



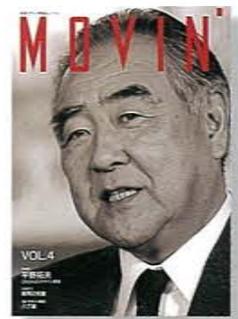
vol.1  
特集／松永 真「高岡イメージポスターを制作して」WAY/伝統工芸とコンピュータ 街・デザイン探訪／金屋町



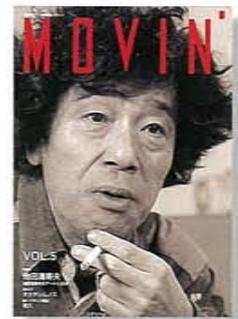
vol.2  
特集／黒川雅之「モノづくりの世界」WAY/NEWS・クリアグループ 街・デザイン探訪／山町の土蔵造り



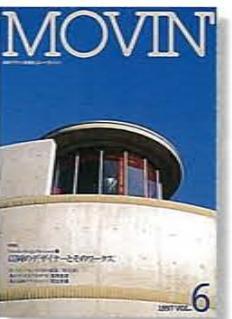
vol.3  
特集／黒木精夫「これからのモノづくりとデザイン」WAY/アルミ加工産業・和菓子業界 街・デザイン探訪／港町「伏木」



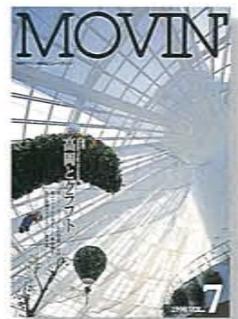
vol.4  
特集／平野拓夫「これからのデザイン環境」WAY/高岡の梵鐘 街・デザイン探訪／八丁町



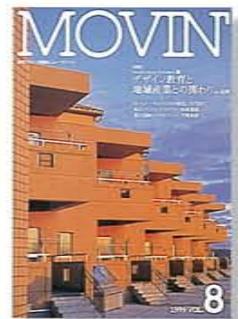
vol.5  
特集／池田満寿夫「アートと日本」WAY/タカラレムノス 街・デザイン探訪／吉久



vol.6  
特集／高岡のデザイナーとそのワークス モノづくりの情景／影金館 私のグッドなプロダクト／荻野克彦 私と高岡クラフトコンペ／羽生野亞



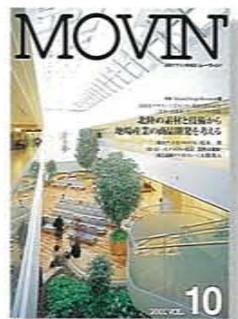
vol.7  
特集／高岡とクラフト モノづくりの情景／塗師 私のグッドなプロダクト／森山明子 私と高岡クラフトコングベ／金子 遼



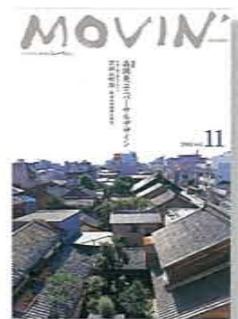
vol.8  
特集／デザイン教育と地域産業 モノづくりの情景／原型師 私のグッドなプロダクト／移本貴志 私と高岡クラフトコンペ／下尾和彦



vol.9  
特集／高岡市デザイン・工芸センター モノづくりの情景／鍛金家 私のグッドなプロダクト／川上元美 私と高岡クラフトコンペ／町田俊一



vol.10  
特集／北陸4県の「素材と技術展」モノづくりの情景／折物木地師 私のグッドなプロダクト／松永 真 私と高岡クラフトコンペ／太田真人



vol.11  
特集／高岡発ユニバーサルデザインフェスタ YOUNG MEISTER／木型師 審査員が買ったクラフト／芦原太郎 未来へ残す町のデザイン／高岡山町筋



vol.12  
特集／サステナブルデザインフェスタ YOUNG MEISTER／銀細工 審査員が買ったクラフト／山田節子 未来へ残す町のデザイン／高岡金屋町





「スワンチェア」アルヴァ・アアルト

等品なのに、この国の製品は、最高級品として、世界市場に躍進している。何と不思議な現象ではないだろうか。この問題は、「にかつて『デザイン』にある」この著書は昭和35年(1960年)に刊行されたものです。日本の製品を「世界市場の最劣等品」とは厳しい評価ですが、それから四十有余年を経た今日の状況はどうでしょう。今回はパネリストのひとり高橋百合子さんが代表を務める株式会社オフィスオクトや日本産業デザイン振興会などの協力の下、北欧の生活用品や北陸4県のクラフトなど約480点が展示されました。またフォーラムでは、伝統工芸の技術をベースにして、新たな試みを模索している北陸と、今なお良質な生活用品を送り続けている北欧のデザイナーやクラフトの状況を比較。ローテーでは佐藤康二さんと北欧・北陸それぞれのデザイン、もうつくりの姿勢を紹介しました。



「korisaria」(柳のバスケット)  
マルック・コッセン

### 高橋 百合子 たかはし・ゆりこ

株式会社オフィスオクト代表取締役  
株式会社エンヴァイロテック代表取締役  
1971年立教大学日本文学科卒業後、読売新聞社に入社。文化事業部で講演会の企画などに携わる。'87年株式会社オフィスオクト設立。'90年株式会社エンヴァイロテックを設立。スウェーデンのオーワック社の日本総代理店として、環境機器の輸入販売を開始。'00年Sweden Japan Trade Award Grand Awardを受賞。東京・新宿のリビングデザインセンターOZONEで開催された「サステナブル・デザイン2000」で「サステナブル・プロダクツ展」をプロデュース。北欧を中心とした人口が少なく、国内の需要だけでは市場が限られるので、消費者や社会が必要とするものをつくるうと心掛けますし、個人の「デザイナー」であっても輸出を念頭において「デザイン」しています。さらには、一般的の消費者も「美しい日用品を使いたい」という意識が高く、つくり手もそれに応えようとしてきました。



例えば、皆さんのご自宅には栓抜きがいくつもあると思いますが、その中に気に入ったもののがいくつありますか? 北欧の家庭ではひとつしかなくて、されど努力してきました。



ですが、「デザイナー」と「クラフトマン」が力を合わせています。また、企業とデザイナーの「コラボレーション」も盛んです。日本でも有名なデザイナーと企業の「コラボレーション」はありますが、北欧では、無名であっても、若いデザイナーと企業が共同で商品をつくるというのはよくあることです。私たちの売れ筋商品のデザイナーにアンナ・ペーターマンさんがあります。彼女は主婦で、子どもがいますが、生活を楽しみながら企業と共に

等品なのに、この国の製品は、最高級品として、世界市場に躍進している。何と不思議な現象ではないだろうか。この問題は、「にかつて『デザイン』にある」

### 高橋 百合子 たかはし・ゆりこ



# 北欧のデザイン/北陸のデザインフェスタ

受けがれ クラフトマンシップ

日本のクラフトデザイン運動の先駆者のひとりである芳武茂介氏(1909~'93年)は、その著書『北欧デザイン紀行 フィンランド/チノマーク/スヌーデン』(相模書房)の中で以下記しています。「北欧の」民情は、素朴、質実、寡黙、忍耐に富み、長い冬の暮らしは、室内の生活をよぎなくされ、生活用品に多くの関心が注がれるのは当然であろう。清楚にしてユーモラスマの香りに満ちた生活型は、すべて北方的環境につちかわれた伝統的民情から、忠実に生まれたものに外ならない。北欧はちょうど、日本の東北、北陸にあたるだろつか。…そこから生まれる生産物はどうだらう、わが国それが、世界市場の最劣

でデザインしています。

北欧のことをよく知るようになりました。私は彼らのライフスタイルに感動しました。流行と共に左右されずに、自分たが気持ち良く暮らすために必要なものだけで生きていくという生活。この価値観を私たちも学んだら、生活が樂しく、快適で、もっと自然になつていくと思します。

## 小松 研治

北欧ではつくり手を  
真剣に育てている

私は1990年と95年、'98年と3度に

わたり、カペラ・ゴートン美術工芸学校やカール・マルムス滕美術工芸学校に留学しました。今日はこれら北欧のものづくりの教育現場を見てきたこと、経験してきたことをお話しします。

カール・マルムス滕の校舎は、やとわとは農家でした。古い農家を買い取つて学校用に改装したものです。この学校には陶芸、木工、染色、菜園の4つのコースがあります。ここでのデザインの考え方には、古い農耕具や家具、生活用品から学び、自給自足の農家の生活の中から必要な物の、必要な形を考えていくところがボリュームのあるようでした。学生には一部座がついてあります。キッチンは共有します。ベッド、机、本棚、洋服ロッカー、じみ箱など生活用品は全て学生によつてつくられたものです。部屋にはあらかじめ家具などは設



「花ぬり」で使用されている器類

漆工房サロン「花ぬり」



店の正面に掲げた案内パネルも、アルミに漆を塗ったものです。20年前の開店当初から使っていますから、耐久性には問題ないといつていいでしょう。

ショップはいわば実験室で、お密さん、大半は旅行客ですが、多くの方に漆器が使いにくいものではないことを理解していただけています。

私どもの事務所は、輪島市内の漆器屋さん全体のデザインを担当しているのではなく、2店の漆器屋さんに出資していました。そのため、その専属でデザインをしています。営業マンが全国のお客さんを訪ね、例えばカウンターの下に置く棚が欲しいなど注文を取つ

## 安藤 五十治 あんどう・いそじ

株式会社花ぬりデザイン事務所取締役  
同上チーフデザイナー

1974年輪島市漆器研究所職員、石川県立輪島漆芸研修所入所。「77年同研修所卒業。'83年「輪島塗り」編集。'84年「花ぬりデザイン事務所設立」。'86年「輪島漆器文様集」編集。'89年和倉温泉「加賀屋」雪月花の漆器デザイン。'93年日本建築フォーラム(BUFF)出展。'95年鶴岡八幡宮斎館の漆工事・納品。'01年東京大丸ミュージアム「漆・魂のデザイン展」出品物デザインコレクション。



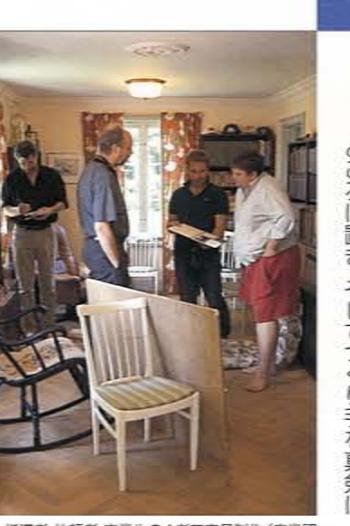
使いやすく、不要な飾りを求める日本  
つくるものと使うものに溝がある日本  
佐藤 北欧では、クラフトとデザインは大きな意味の違いを持っています。

使いやすく、不要な飾りを求める日本  
つくるものと使うものに溝がある日本  
佐藤 北欧では、クラフトとデザインは大きな意味の違いを持っています。

part 2 受けつけられる  
クラフトマンシップの比較  
part 2 はこの3氏の報告を基にパネルディスカッションを開催し、その課題などが掘り下げられました。冒頭に「コーティネーターの佐藤さんが、「このフォーラムに当たって、言葉の意味を調べてみました。クラフトと云うのは手仕事による製作、手工業である。工芸は、簡単な塗りは若い職人に任せざるを得ません。昔でしたら、先輩の職人が若手を指導していましたので、「さあ頑張れ」と掛け声をかけるだけでよかつたのですが、最近は仕様書が大事なものになつてきました。

ご他間に漏れず、輪島塗も最近は売れなくなっています。ですから、展示会では、フレゼンテーションが大切だということです。例えば机の展示にはテーブルコーティネーターの指導を受けて、漆器のある生活空間を素敵に見せるように工夫するなど、販促に力を入れています。

漆は、天然のものであり人肌に近い水分を含んでいますので、生活の素材として広く見直すことが大切だと思います。



学生:指導者:依頼者:卒業生の4者で家具制作(卒業課題)を進める様子(カール・マルムス滕美術工芸学校)



「熊手」フィスカス社(手前)など

## 火のアサイン火のアサイン

火のアサイン火のアサイン

## 小松 研治

こまつ・けんじ  
国立高岡短期大学産業造形学科教授  
1981年東京芸術大学美術学部卒業。  
1983年同大学院美術研究科工芸(漆芸)専攻修士課程修了。高澤学園さいどばた美術学院非常勤講師を経て、'86年国立高岡短期大学産業工芸学科講師、「93年助教授、「03年教授に就任。この間、「90年にスウェーデンのカペラ・ゴーデン美術工芸学校およびストックホルムのカール・マルムス滕美術工芸学校へ研修員として留学。「01年には「爪研ぎヤスリ」「仏壇のプロトタイプ」等の産学連携制作を行う。



「ステルトン・ライン」  
エリック・マウセン

置かれていますが、もし気に入らなかつた場合は学校の作品庫に保管されています。中から選ぶことができました。

先ほどコースのひとつに菜園を挙げました。これは実際に畑仕事で、木工の学生も染色の学生も皆、行います。最初は畑仕事の意味が分からませんでしたが、自然を観察することや、ものづくことや、ものづくりを考える上では貴重な時間だと後で分かりました。

先生方は学校では、

教えてることに専念して、

自分の作品づくりには時間を使いませ

ん。教材も豊富で、例えば家具などでは、

分解できるもの、じっくりの角度で断面を切ったものなどが豊富に用意され、構造や部材の動きが理解できるように配慮されていました。

学生は、学校から材料を支給されて作

品をつくります。ですから、でき上がつ

た作品は全て学校のもので、展示会など折に値段をつけて販売します。つくりた本人が、どうしても欲しい場合は買いたい。流行とかに左右されずに、自分たが気持ち良く暮らすために必要なものだけで生きていくという生活。この価値観を私たちも学んだら、生活が楽しく、快適で、もっと自然になつていくと思します。

## 安藤 五十治

生活の中で普通に  
漆器を使うことを提案

輪島塗の起源は室町時代まで遡りますが、今日は昭和59年(1984年)以降、私ももの取り組みを紹介します。当時は安くても100万円くらいの大きな机や時計を施してある屏風など漆器がほんほん売れた時代でした。

私が思っていた漆器は生活の身近なところに置き、そしてつくり手を真剣にこれました。私が思っていた漆器は生活の身近なところで使われるものでしたが、当時の状況は私の思ひとはだんだん掛け離れていました。それで、花ぬり事務所をつくり、生活の身近なところで漆器を使っていたただくことを提案することを目的にショットが開きました。ショットには喫茶「ナーナー」があり、そこでは漆器の「コーヒーカップ」を使っていました。ショガーボットやミルクボットも漆器。軟らかめのスポンジ



裏の畠からカペラ・ゴーデン美術工芸学校の建物を望む

ワークショップ

### 「和紙のランプシェードをつくる」

- 平成15年10月11日(土)
  - 高岡市デザイン・工芸センター1階(体験工房)
  - 講師／浦田 和夫(あかり工房KAZU代表)



同フェスタの期間中に実施されたワークショップでは、室内空間を快適にする意識の高い北欧に習い、10名の参加者が白熱灯や和紙などを使ってオリジナルの照明器具づくりに挑戦した。和紙をはじめ、コウゾ、竹、麻ひも、オアヨモギなど、素材はどれも雪深い北陸の住まいに柔らかな光を演出してくれそうな自然のものばかり。これらを思い思いの形に組み上げながら、わが家にぴったりのデザインに仕上げていった。完成作品に明かりが灯ると、工房内は大きな拍手と歓声に包まれた。この感激を参加者たちは、「和紙を透した明かりを初めて見たが、蛍光灯より温かみがあって趣深い」「普段から興味があった照明を手づくりできて感激。おしゃれに使って、もっと冬の暮らしを楽しみたいなどと話していく。



**佐藤** 自動車や家電は別にして、生活用品に関していえば、メーカー、デザイナー、政府の目が海外に向いていないのは事実です。北欧の場合は国内の需要だけでは期待できないから海外へと

ザインされた生活用品にも、いいものがたくさんある。私どもの北欧の取引先が日本に来られた時にデザインショツプを案内しましたが、洗練されたものが多いのに驚いていました。実際、北欧でも日本でデザインされたもので人気の高いものがありますが、欧米に対するコンフレックスみたいなものがあるのか、すごくいいのに世界に発信できていないように思えます。

じては深く掘り下げるとはありませ  
んでした。ハウハウスも、工芸的装飾性  
をデザインにまで高めたイギリスのア  
ート&クラフト運動の影響を強く受け  
ています。北欧はそれに準じてじく自  
然にヨーロッパの歴史的文脈の中でデ  
ザイン性を継承していくのです。

芳武茂介さんが1957年に北欧の  
「デザイン事情を視察して書いた『北欧  
デザイン紀行』」の中で、「日本の工芸文  
化の高さは世界の識者に評価されてい  
た。しかし明治以降、工業技術が導入さ  
れて世界の強国に短期間に近代国家を



「グラヴィティ・バランス」ストッケ社(米)<sup>1)</sup>

テノでグレゴール・パウルソンが「日用品をより美しく」を発刊しましたが、この精神が浸透しています。この年に実はドイツではバウハウスが開校し、新建築工芸運動が始まります。それと符合してヨーロッパにスカンジナビアデザインが一緒に入ってきますが、装飾性につ

築き上げた半面、必然的に固有の生活文化が混乱を招き、生活用品などの繊細な企業が重大な打撃を受けて、新しい工業から取り残され、品質は著しく低下してしまった」と語っています。今日の日本が抱えているデザインやクラフトの問題と大して変わらないことが書かれています。

**高橋** 北欧の製品は一般的に見えるのは、不必要な飾りはありません。一例をいこますと「デンマークのボールボアラ」というワインを注ぐ時に便利な栓があり、それには「ホールド」とシルバーがある。メーカーにうかがうと、シルバーは売れるけど、ホールドは売れない。北欧の人たちにとつて「ホールドはほとんど何も意味がないようです。また、私は漆器が好きなのですが、お菓子を入れたりしてもっと気軽に使えるものがあれば、うれしいなと思います。

**小松** 私も学生時代に漆を学びました。時絵を施した硯箱やお椀などをつくりましたが、生活の中で気楽に使えるというわけではあります。お土産で、佐藤 つくるわのと使うやつに溝がある。



#### 3. 前期（飙升）

高橋 日本ではもともとの発想が内向きで、過極的です。でも生活用品も海外へ輸出したりしているのです。  
佐藤 でも現実には、海外に目が向かないし、輸出もしていない。それは中国や東南アジアの製品には値段で太刀打ちできないからです。また例えば漆器の場合には技術的には国内には高いものが、あると負けてる面もあるのだとは、  
安藤 間違ひなくそれもあります。中  
ソ等で生産するのは「ストーブフォーム  
ンスを求めてのことですが、「この見本  
のように塗つてしまだら」と云つてや、

器が好きなのですが、お菓子を入れたりしてわざと気軽に使えるものがあれば、うれしいなと思ひます。

小松 私も学生時代に漆を学びました。蒔絵を施した硯箱やお椀などをつくりましたが、生活の中で気楽に使えるというわけではありません。佐藤 つくるものと使いわざのこ溝がある。

北欧の「ナサイ

人は非常にシン・フルです。/// |マコスマ、  
そき落としてどうサザインとこうの意味  
ですが、これは北欧で始まりました。先  
ほど田中藤さんは、華美な漆器ではなく  
シンプルで、生活で使う  
漆器を田中がお店を

科目でした。家の家具や配管が壊れても、基本的な作業は自分でできるよう義務教育のうちに教えているのです。

佐藤 基本的な技術を、義務教育のうちに習得するのは分かりました。でも北欧の製品は世界にどんどん輸出され、各国で受け入れられている。デザインを世界に向かって発信している、そのバ

したが、お客様からのお一言に感謝の言葉を  
オーダーの中には華美なものもあるでしょ。  
安藤 10年ほど前でした  
い装飾のあるものが7、  
ないものが3の割合でした  
たが、最近は無地のものが5～6割です。  
特注品の場合、生活の中で使いやす  
いものを探めておられますから装飾  
はなくていいといわれる方が大半です。  
佐藤 北欧の場合は、シンプルなデザ  
インを好みます。生活そのものの  
シンプル。質素といつてもらふ。でも

日本の生活用品も洗練されている  
でも、世界への情報発信が上手くない  
高橋 政府の支援の姿勢も関係している  
と思います。例えばスウェーデンのあ  
るメーカーが、日本に販売店を置く計画  
を持ったとしまして。そうしたらい日本  
にあるスウェーデン大使館では、販売店  
が立ち上がるまで大使館にいさせてく  
れる。また大使館の中で、製品の展示会  
を頻繁に開催し、販売を支援していま

### 第三 たとうごうきょう

プロダクトデザイナー  
株式会社コーネーデザインスタジオ代表取締役  
高岡市デザインアドバイザー  
1976年ミラノデザイン工科大学(SPD)にてブリーフナーリに師事し、インダストリアルデザイン科を卒業。ミラノ、ロドルフォ・ボネットデザインスタジオ入社。フット、オリベッティー、アルテルーチェなど多数のデザイン開発に参画。「83年度コーネーデザインスタジオ設立」を実施。「88年、'91年、「93年通産省グッドデザイン賞」を受賞。「90年工芸都市高岡クラフトコンペティション審査委員会委嘱、高岡市デザインアドバイザー委嘱。「03年JIDPO(日本産業デザイン振興会)よりDesign Experts認定を得る。グッドデザイン賞審査委員、日本デザイン振興会協同組合理事。

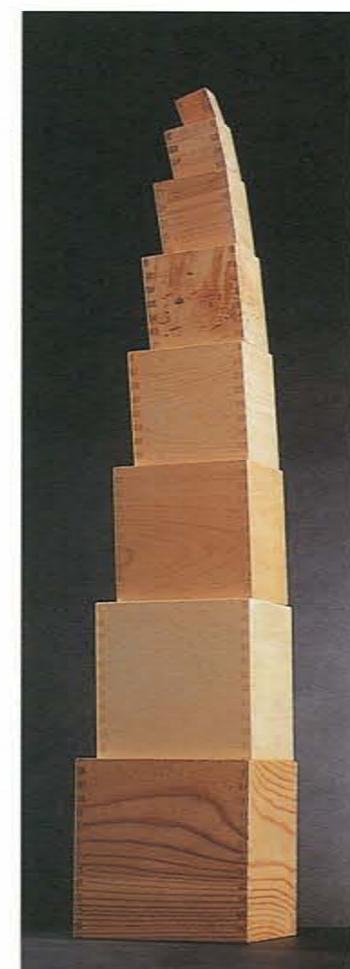


世界的なデザイナーがたくさん出てこ  
る。生産の質を上げよといふ価値觀  
が根強くあるからに他ないが、こ  
ういふことじつがある。

二〇九

だけではなく、今の日本の生活用品を世界に紹介する。展示会場にあつた皆さん方が共同制作したごみ箱などは、私も売りたいなと思いました。

じるのことはできませんが、方向性や見直すための端緒は紹介できたのではなつかと思ふ。今日もまたありますかね。







万葉線の新車両

## ユニバーサルデザインの新型路面電車が登場！

問 万葉線株式会社 tel 0766-25-4139

高岡市と新湊市を結ぶ路面電車「万葉線」に、36年ぶりの新車両がやって来た。試運転や乗員研修を実施し、今年1月21日から営業運転を開始。町に市民に元気を振りまきながら、真っ赤なボディーで快走中だ。

この新車両は、ホームとの段差がほとんどない超低床（床高30cm）で、すべての人が利用しやすい、まさにユニバーサル時代にふさわしい乗り物。車いすから降りることなく乗降でき、専用の乗車スペースも確保されている。冷暖房、対面式の座席、硬めのクッション、液晶型運賃表示機などの最新設備を備えており、従来の車両に比べて快適性もかなり向上した。

これらのデザインは、高岡市のデザインアドバイザーでプロダクトデザイナーの佐藤康三氏によるもの。斬新な赤の車体は、万葉のイメージ「情熱」と「元気」を表現。前面には地場産業である漆工芸を活用し、螺鈿で万葉線のシンボルマークを掲げた。

試運転や一般試乗会には、新車両をひと目見ようと大勢の市民や鉄道ファンが訪れた。運行を始めた現在も、人気は上々。同社は、来年度の新車両導入も視野に入れ、今後も新車両のPRやサービスの充実を図りながら、万葉線のイメージアップに努めていく方針だ。



ユニバーサルデザインを追求した車内

たかおか・産業マッチングフェア

## 新技術の紹介で、ビジネスチャンス拡大を狙う

問 財団法人高岡地域地場産業センター tel 0766-25-8283

産業分野での最新技術をPRする「たかおか・産業マッチングフェア」が平成16年2月6日～8日まで、高岡地域地場産業センターで開催された。これは同センターの設立20周年記念事業として、企業や大学・研究機関などがシーズとニーズを持ち寄りビジネスマッチングを図ることを目的に初めて企画したもの。アルミ、樹脂、ガラスなどの製造業から、市内に生産拠点を置く大手メーカー、銅器・漆器の伝統工芸の他、大学・研究や金融まで、規模も業種もさまざまな27社、2団体、6機関が出展。鉛レース黄銅棒を使用した精密加工部品やノンレールのアルミサッシなど、注目の新製品が勢ぞろいし、来場者は最先端の技術に興味深そうに見入ったり質問を投げかけたりしていた。

会期中には、より具体的に新技術・新製品の開発プロセスや新事業の特長などを発表する場として、企業による「ワークセミナー」を同時開催した。三協アルミニウム工業がマテリアル事業の概要を説明した他、伝統産業のハイヒルや日本ゼオン子会社のオプテス高岡工場など7社が新たな取り組みを紹介。業界関係者は優良なビジネスパートナーを探そうと、真剣な表情で説明に聞き入っていた。



フェアの出展内容（8月まで）及び、高岡企業ガイド（市内100社の企業情報）をホームページで発信中。<http://www.takaokajibasan.or.jp/>

Kozo SATO + t[j]r

## 高岡漆器の若手グループが、東京デザイナーズウィークへ出展

問 高岡漆器株式会社内 t[j]r事務局 tel 0766-21-0262

高岡漆器青年会とプロダクトデザイナーの佐藤康三氏（高岡市デザインアドバイザー）で構成する、漆のデザイン制作集団「Kozo SATO + t[j]r」が、平成15年10月に東京お台場で開かれた国際デザインイベント「東京デザイナーズウィーク」に出演した。



同グループは、伝統的な技術と素材を生かしながら、現代の暮らしに合ったモノづくりを考えよう、同年6月に結成。高岡ブランドのPRやマーケットリサーチなど、漆の可能性を探る初舞台として、世界のデザイナー作品が集まるデザイナーズウィークを選んだ。同イベントでは、貨物コンテナを発表ブースとしたコンテナエキシビションに参加し、普段づかいの器50点と漆の見本帳である手帳90枚を展示。大手企業や著名デザイナーのコンテナ74個が立ち並ぶ中、約6,000人が来場し行列ができるほど注目を集めた。来場者の多くは20代～30代前半の若者たち。「都内にショップはあるか」「色のパターンオーダーは可能か」などの問い合わせも相次いでいた。

翌月28日には、支援者に向けた報告会を実施。佐藤氏とメンバーはこの成果をふまえ、「今後も新商品（量産品）の開発などを通じ、高岡ブランドの確立と知名度アップを図りたい」と話した。

\*t[j]rは、「takaoka japan refiners」の略で、高岡の漆(japan)を変えていく人たちを意味する。

工芸都市高岡2003クラフト展

## これからの新しい生活を創り出す、力作ぞり

問 高岡商工会議所内クラフトコンペ事務局 tel 0766-23-5000

平成15年10月23日から6日にわたり開催された高岡クラフト展。メイン会場の大和高岡店には、930点の入選作品が展示された。

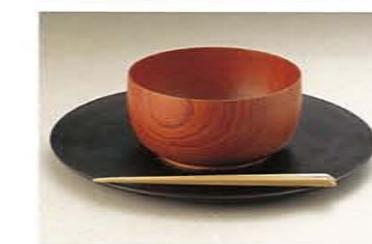


今回のコンペでは、「単純ながら、繊細な造形が今年度の特徴」という内田繁審査委員長の講評もある通り、伝統工芸の技術や技法を生かしたシンプルな作品が目立った。中でも、グランプリ「Unity」、金賞「どん」、銀賞「Luxury Bowl・Lightful Bowl」は、生活の道具としての機能を備えつつ、フォルムに少しの無駄もない。この3作品は、クラフト展の来場者の投票によって決定する「生活者が選ぶクラフト賞」でも高得票をマーク。同コンペの方向性と消費者のニーズが合致した、「新しいクラフトをもとめて」のテーマにふさわしい作品が選ばれた証と言えよう。

また、新たな試みとして、過去の入賞作品や審査講評を収録した「17年間の記録CD」を作成。歴代審査員や協力団体、マスコミなどへ配付すると共に、1枚1,500円で販売も行っている。



グランプリ「Unity」



金賞「どん」



銀賞「Luxury Bowl - Lightful Bowl」

2003伝統工芸ふれあい広場・富山

## 全国の職人技が高岡に集結

問 富山県商工労働部観光課内富山県伝統的工芸品月間推進協議会事務局 tel 076-444-8784

11月の伝統的工芸品月間に合わせ、全国の伝統的工芸品を紹介する「2003伝統工芸ふれあい広場・富山」（主催：（財）伝統的工芸品産業振興協会、富山県伝統的工芸品月間推進協議会）が平成15年11月6日～9日まで、高岡市の高岡テクノドームをメイン会場に、県内5会場で開催された。



全国各地の伝統的工芸品が揃った高岡テクノドームでは、「染」「漆器」「木と竹」「金工・仏壇」など工芸別に8つの広場が設けられ、京くみひも（京都）、肥後象がん（熊本）など32工芸品の職人が長年受け継いできた技を披露。江戸切子、博多人形など11工芸品の製作体験コーナーのほか、全国84工芸品产地の伝統工芸士の手による作品約2,000点が展示販売された。また、会場中央では伝統工芸の粹を集めた高岡御車山を特別展示。エントランスホールでは、県内伝統的工芸品である高岡銅器・高岡漆器や井波彫刻、庄川挽物木地、越中和紙の秀作、高岡ブランドHiHillを紹介するなど、地元富山県の魅力を伝えるコーナーも随所に見られた。

会期中、高岡と八尾、平、庄川、井波のサテライト会場を結ぶ無料シャトルバスも運行。大勢の工芸ファンが各産地を訪れ、作品展や体験教室を楽しんだ。



## クラフトマンズ ギャザリング

## 若手の情熱で、クラフトの魅力をアピール

問 高岡市デザイン・工芸センター tel 0766-62-0520

高岡市デザイン・工芸センターに隣接する富山県産業高度化センター1階展示場で、若手クラフトマンによる作品展「クラフトマンズ ギャザリング」が平成15年7月19日~27日まで開催された。サン・センター(富山県産業高度化センター、富山県総合デザインセンター、高岡市デザイン・工芸センターの総称)では、市民との交流を図ることを目的に平成11年の開館当初から、毎年さまざまな文化イベントを行っている。今年度は、富山県内で活躍する若手クラフトマン17人が出品し、作り手と使い手とが触れ合える楽しいギャザリング(集まり)となった。

会場では、金属、漆、木工、ガラス、陶磁器、アクセサリーなど幅広いジャンルのクラフト約500点を展示販売。どれもナチュラルでハンドメイドの温かみがあるものばかりだ。期間中、お値打ち品を揃えた「クラフトマーケット」も実施。20代の若者を中心に約900人のクラフトファンが訪れる、作り手との会話を楽しみながら、自分だけのお気に入り探しに夢中になっていた。

内島正雄さんが作る漆の器は美しい、けれど丈夫で扱いやすい。すべてに天然の素材を使い、丁寧に布が張られている。口当たり手触りがさしく、表情も豊か。まるで、使ってみて、と説くかのようだ。

伝統技術の確かな素地がありながら、新しい分野や技術にも果敢に挑む。一昨年には手製の作品帳を抱え、東京の百貨店へ売り込みに出掛けた。今は年に一度、個展を開催。今年の秋までには、高島屋・伊勢丹の本店で内島さんの常設展が楽しめるようになる。

愛着のもてるものへと移行してきた。百貨店における本物志向や個性的な暮らしにこだわる世相の流れにも、「新しい生活に合う」たセンスで、良質な仕事をしていくだけ。使え、良さが分かってもらえる」と、内島さんは動じない。



横浜高島屋の「内島正雄 漆芸展」(平成15年10月8日~14日)。翌11月には本店日本橋でも同展を開催。

「おもてなし」  
次の世代へ伝えたい  
愛着のもてる本物の器たち。



「おもてなし」  
●手提おもてなしセット／本堅地仕上げ 漆塗(檜、麻布、地ノ粉、漆)／W19.5×H29×D19.5cm  
価格 189,000円  
(本体価格180,000円)

●ランチョンマット／布張仕上げ(天然木、麻布、木金、漆)／W39.5×H1.2×D33.5cm  
価格 5枚157,500円  
(本体価格150,000円)

●御椀(麻紐巻)／本堅地仕上げ(櫻、麻布、麻紐、地ノ粉、漆)／φ12.2×H10.5cm  
価格 5客157,500円  
(本体価格150,000円)

●塗箸／(檜、乾漆粉、漆)／長さ24cm  
価格 4,725円  
(本体価格4,500円)

問 内島正雄  
tel 0766-44-5208

## IN-EI「陰翳」解体新書/黒川雅之の自己解剖

## 陰翳をテーマに、黒川雅之氏が高岡で個展

問 高岡市デザイン・工芸センター tel 0766-62-0520



建築家・プロダクトデザイナーである黒川雅之氏の個展「IN-EI『陰翳』解体新書/黒川雅之の自己解剖」(平成15年5月23日~6月1日)が高岡市美術館で開催された。黒川氏は、平成元年から10年まで工芸都市高岡クラフトコンペの審査員、8年か

らー昨年まで高岡市のデザインアドバイザーを務めるなど、高岡に縁が多い。現在は、物学研究会の代表・㈱デザイントープの主宰で、金沢美術工芸大学美術工芸研究科教授。

個展では近作28点を並べ、日本文化特有の美である「陰翳」を表現。明かり障子を反転させて家具とした木と紙の「螢/BETWEEN(立札卓)」、素材感のある和紙の屏風の上端に四角い穴を開けた「黒のスクリーン」などが目を引き、正面からだけでなく、裏側に回ったり、しゃがみ込んだりしてじっくりと鑑賞する人も多かった。

個展初日に行われたデザイントークでは、学生やデザイン関係者ら約100名が聴講。歴代作品の写真を見ながら展開される黒川氏の「陰翳」というテーマによる背景に聞き入っていた。



《最優秀賞》建築物部門/浅田歯科医院

## 平成15年度高岡都市美景観賞

## 満場一致で、最優秀賞が決定

問 高岡市都市整備部建築指導課 tel 0766-20-1429



《優秀賞》住宅部門/森邸



《優秀賞》町並み景観部門/能町の通り

高岡市が優れた都市美を創りだしている町並みや建造物などを表彰する平成15年度の「高岡都市美景観賞」が決まり、最優秀賞に建築物部門で高岡市戸出町の浅田歯科医院が選ばれた。市民の景観に対する意識向上を図ろうと始まったもので、12年目。今回は30人から51件の応募があり、グラフィックデザイナーの松永真氏を委員長とする7人の選考委員が審査にあたった。

最優秀賞の浅田歯科医院は、「隣地との間に障壁を設けず、建物から庭そして遠景の田園が連続し、風景が融合している」点が秀逸。選考委員に最初から支持され続け、満場一致で決定した。その他、優秀賞には、「歴史と伝統ある町並み構成をうまく設計に取り込んだ」森邸(住宅部門)、「通学路としても散策路としても、安全で快適な道路環境である」能町の通り(町並み景観部門)などが選ばれた。松永委員長は、「賞の意義とは、受賞後に長所が伸びて近隣に影響を与えて、リーダーシップを發揮することを期待するところにある。今後は、新しい景観の創出だけでなく、『受賞物件のその後』もやさしい眼差しで見守っていただきたい」と講評している。

## 第29回デザインセミナー

[平成15年6月24日開催] 主催/高岡市デザイン・工芸センター

## 「榎本文夫が見るイタリアの商品開発力とその実践」

デザイナー・駒沢女子大学空間造形学科教授 榎本文夫

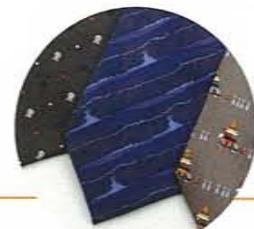


1957年東京生まれ。「79年東京造形大学造形学部デザイン学科室内建築専攻卒業後、同大学研究生となり多木浩二教授に師事。'80~'86年㈱クラマタデザイン事務所勤務。'86年榎本文夫アトリエ設立。'92年東京造形大学デザイン学科家具コース非常勤講師。'93~'02年東京YMCAデザイン研究所インテリア造形科非常勤講師。'02年~駒沢女子大学人文部空間造形学科教授。'86~'87年「ISSEY MIYAKE」ショップ、「91年寿司屋「塗田」(東京)、「92~'93年「IS & TSUMORI CHISATO」ショップ、「92年arflex Japan「FE」、「93年ヤマギワ「La Foria」(カナダ国立科学技術博物館永久保存)、「93~'97年PLUS商品開発、「94年骨董品店「井上・オリエンタルアート八重洲」(東京)、「01年エレコム「N series」、「02年駒沢女子大学「Product Design Studio/MAC Room」(東京)など、プロダクト・インテリアのデザイナーとして数多くの作品を生み出す。

榎本文夫氏の講演は、「僕が見たピックリとこだわり」というキーワードに沿って進められた。前半は、デザインをする上での自身のこだわりについて。ショップやプロダクトの仕事25件を事例にあげ、ローコストでありながらデザイン性を高めるユニークな素材選びを紹介した。例えば、スチールフレームに透明のテント地のカバーを付けファスナーで開閉するシーソースケースや、梱包用のパッキング材を用い皿が壁面に浮かんで見える前衛的な展示デザイン。また、工業部材を外装に、FRP平板やパンチングメタルを内装材に使用するといった、コ

ストを抑えながらも斬新な手法について詳しく説明した。

続いては、イタリアの国際家具見本市「ミラノサローネ」に見るデザイナーやメーカーのごだわりについて。まず「ヨーロッパの家具メーカーは、自分たちのモノづくりにプライドとこだわりをもっている」と述べ、後半をスタート。長円パイプを縦方向に美しく曲げたデザインユニットAZUMIによるスツール、プラスチックぼうきの先端を扉として利用したエドラーの食器棚、PPフロー成形で作った巨大アートオブジェのようなモロゾーの椅子など…。デザインや仕上げの美しさが際立った、近年のサローネ出展作30点を紹介した。さらに、プレゼンテーション力の高さについても力説。「ディスプレイセンスが良く、アピール術にも長けている。我々日本人も見習いたい」と語った。最後に、高岡のメーカーに向かって「伝統技術へのごだわりも重要だが、今後はもっと『どれだけ良いモノを作っていくか』という精神的な部分のこだわりも必要ではないか」と提言し締めくくった。



## 観光ネクタイ

## ネクタイで、市民一人ひとりが観光大使に

問 高岡町衆サロン tel 0766-20-0555



高岡の観光名所を描いたネクタイが、地元企業や市民の心をつかんだ。高岡商工会議所が初めて商品化した観光土産品で、高岡の観光シンボルである雨晴海岸、御車山、大仏をモチーフにデザインした。それぞれ色違いもあり、全部で8種類。「胸元でさりげなく高岡をPRできる」という点が人気の理由だ。

発案元である同商の高岡町衆サロンは、「観光客だけでなく、市民一人ひとりが身に付けることで高岡の名所を宣伝できるものを作ろう」という発想。

土産品特有の奇抜な色や柄は避け、実用性のあるデザインを心がけた」と話す。そういうこのネクタイ、「よく見ると大仏さん」といった具合で、水玉や影などの模様を組み合わせながら名所がさりげなくデザインされている。色合いも落ち着いており、出張先や行事での利用が多いというのもうなずける。地元企業や市民の購買を見込んだが、ファンは観光客にも広がった。「普段でも違和感なく使えそう…、と買われる方が多いようだ」と同商。ヒットの鍵は、デザインが握っていたらしい。

# 彫刻と漆塗で丸盆をつくろう

## 職人さんの指導で初めての手づくり

高岡市デザイン・工芸センターの工芸体験実習の様子を紹介するこのコーナー。今回は、漆工「彫刻と漆塗で丸盆をつくろう(平成15年6月実施)」の講座におじゃました。高岡漆器は、彫刻塗、勇助塗、青貝塗の多彩な技法が特色。とりわけ今回体験する彫刻塗は、彫刻による立体感と色漆による艶の融合から生まれるダイナミックな迫力が魅力なのだと。果たして、イメージ通りのお盆を手にすることができるのか。気合いを入れて、いざスタート!



### 1週目 「彫刻」→「木地固め」



### 2週目 「下塗り」→「中塗り」



### 3週目 「絞漆」→「中塗り」



### 4週目 「上塗り」「彩色」



## 【平成16年度工芸体験実習開催予定】

### ■親子体験実習 親子2名1組【子どもは小学3年生以上】

日程	内容
金 工	アルミ缶を溶かして 鋳物のルームプレートをつくろう
漆 工	銀粘土でキーホルダーをつくろう
金 工	石に貝細工(彫鏤)をして ペーパーアートをつくろう
漆 工	丸盆を楽しむ

高岡市デザイン・工芸センター TEL:0766-62-0520 FAX:0766-62-0521

### ■市民体験実習1回コース 15歳以上

日程	内容
平成16年7月11日(日)	鉢物のオリジナル鉢計をつくろう
〃 8月22日(日)	銀粘土でキーホルダーをつくろう
〃 7月25日(日)	石に貝細工(彫鏤)をして ペーパーアートをつくろう
〃 8月 8日(日)	丸盆を楽しむ

### ■市民工芸実習3回/4回コース 15歳以上

日程	内容
平成16年 9月19日(日)	鉢物のオリジナル鉢計をつくろう
〃 11月26日(日)	銀粘土でアクリセリードをつくろう
平成17年 2月 6日(日)	鉢物のフォトスタンドをつくろう
平成16年 6月13日(日)	鉢植のマウスをつくろう
〃 12月12日(日)	羽子板に蒔絵をしよう
平成17年 2月20日(日)	雛人形に蒔絵をしよう

http://www.suncenter.co.jp/takaoka/

<b>織田 定男</b> <small>現代工芸美術家協会会員</small> 1960年福井県生まれ。88年富山県立高岡工業高等専門学校工芸科卒業。90年富山県養成スクール修了。88年独立。90年高岡市伝統工芸技術者研修会修了。92年高岡市伝統工芸技術者認定。93年高岡市伝統工芸技術者認定。94年高岡市伝統工芸技術者認定。95年高岡市伝統工芸技術者認定。96年高岡市伝統工芸技術者認定。97年高岡市伝統工芸技術者認定。98年高岡市伝統工芸技術者認定。99年高岡市伝統工芸技術者認定。2000年高岡市伝統工芸技術者認定。2001年高岡市伝統工芸技術者認定。2002年高岡市伝統工芸技術者認定。2003年高岡市伝統工芸技術者認定。2004年高岡市伝統工芸技術者認定。2005年高岡市伝統工芸技術者認定。2006年高岡市伝統工芸技術者認定。2007年高岡市伝統工芸技術者認定。2008年高岡市伝統工芸技術者認定。2009年高岡市伝統工芸技術者認定。2010年高岡市伝統工芸技術者認定。2011年高岡市伝統工芸技術者認定。2012年高岡市伝統工芸技術者認定。2013年高岡市伝統工芸技術者認定。2014年高岡市伝統工芸技術者認定。2015年高岡市伝統工芸技術者認定。2016年高岡市伝統工芸技術者認定。2017年高岡市伝統工芸技術者認定。2018年高岡市伝統工芸技術者認定。2019年高岡市伝統工芸技術者認定。2020年高岡市伝統工芸技術者認定。2021年高岡市伝統工芸技術者認定。2022年高岡市伝統工芸技術者認定。2023年高岡市伝統工芸技術者認定。2024年高岡市伝統工芸技術者認定。2025年高岡市伝統工芸技術者認定。2026年高岡市伝統工芸技術者認定。2027年高岡市伝統工芸技術者認定。2028年高岡市伝統工芸技術者認定。2029年高岡市伝統工芸技術者認定。2030年高岡市伝統工芸技術者認定。2031年高岡市伝統工芸技術者認定。2032年高岡市伝統工芸技術者認定。2033年高岡市伝統工芸技術者認定。2034年高岡市伝統工芸技術者認定。2035年高岡市伝統工芸技術者認定。2036年高岡市伝統工芸技術者認定。2037年高岡市伝統工芸技術者認定。2038年高岡市伝統工芸技術者認定。2039年高岡市伝統工芸技術者認定。2040年高岡市伝統工芸技術者認定。2041年高岡市伝統工芸技術者認定。2042年高岡市伝統工芸技術者認定。2043年高岡市伝統工芸技術者認定。2044年高岡市伝統工芸技術者認定。2045年高岡市伝統工芸技術者認定。2046年高岡市伝統工芸技術者認定。2047年高岡市伝統工芸技術者認定。2048年高岡市伝統工芸技術者認定。2049年高岡市伝統工芸技術者認定。2050年高岡市伝統工芸技術者認定。2051年高岡市伝統工芸技術者認定。2052年高岡市伝統工芸技術者認定。2053年高岡市伝統工芸技術者認定。2054年高岡市伝統工芸技術者認定。2055年高岡市伝統工芸技術者認定。2056年高岡市伝統工芸技術者認定。2057年高岡市伝統工芸技術者認定。2058年高岡市伝統工芸技術者認定。2059年高岡市伝統工芸技術者認定。2060年高岡市伝統工芸技術者認定。2061年高岡市伝統工芸技術者認定。2062年高岡市伝統工芸技術者認定。2063年高岡市伝統工芸技術者認定。2064年高岡市伝統工芸技術者認定。2065年高岡市伝統工芸技術者認定。2066年高岡市伝統工芸技術者認定。2067年高岡市伝統工芸技術者認定。2068年高岡市伝統工芸技術者認定。2069年高岡市伝統工芸技術者認定。2070年高岡市伝統工芸技術者認定。2071年高岡市伝統工芸技術者認定。2072年高岡市伝統工芸技術者認定。2073年高岡市伝統工芸技術者認定。2074年高岡市伝統工芸技術者認定。2075年高岡市伝統工芸技術者認定。2076年高岡市伝統工芸技術者認定。2077年高岡市伝統工芸技術者認定。2078年高岡市伝統工芸技術者認定。2079年高岡市伝統工芸技術者認定。2080年高岡市伝統工芸技術者認定。2081年高岡市伝統工芸技術者認定。2082年高岡市伝統工芸技術者認定。2083年高岡市伝統工芸技術者認定。2084年高岡市伝統工芸技術者認定。2085年高岡市伝統工芸技術者認定。2086年高岡市伝統工芸技術者認定。2087年高岡市伝統工芸技術者認定。2088年高岡市伝統工芸技術者認定。2089年高岡市伝統工芸技術者認定。2090年高岡市伝統工芸技術者認定。2091年高岡市伝統工芸技術者認定。2092年高岡市伝統工芸技術者認定。2093年高岡市伝統工芸技術者認定。2094年高岡市伝統工芸技術者認定。2095年高岡市伝統工芸技術者認定。2096年高岡市伝統工芸技術者認定。2097年高岡市伝統工芸技術者認定。2098年高岡市伝統工芸技術者認定。2099年高岡市伝統工芸技術者認定。2100年高岡市伝統工芸技術者認定。2101年高岡市伝統工芸技術者認定。2102年高岡市伝統工芸技術者認定。2103年高岡市伝統工芸技術者認定。2104年高岡市伝統工芸技術者認定。2105年高岡市伝統工芸技術者認定。2106年高岡市伝統工芸技術者認定。2107年高岡市伝統工芸技術者認定。2108年高岡市伝統工芸技術者認定。2109年高岡市伝統工芸技術者認定。2110年高岡市伝統工芸技術者認定。2111年高岡市伝統工芸技術者認定。2112年高岡市伝統工芸技術者認定。2113年高岡市伝統工芸技術者認定。2114年高岡市伝統工芸技術者認定。2115年高岡市伝統工芸技術者認定。2116年高岡市伝統工芸技術者認定。2117年高岡市伝統工芸技術者認定。2118年高岡市伝統工芸技術者認定。2119年高岡市伝統工芸技術者認定。2120年高岡市伝統工芸技術者認定。2121年高岡市伝統工芸技術者認定。2122年高岡市伝統工芸技術者認定。2123年高岡市伝統工芸技術者認定。2124年高岡市伝統工芸技術者認定。2125年高岡市伝統工芸技術者認定。2126年高岡市伝統工芸技術者認定。2127年高岡市伝統工芸技術者認定。2128年高岡市伝統工芸技術者認定。2129年高岡市伝統工芸技術者認定。2130年高岡市伝統工芸技術者認定。2131年高岡市伝統工芸技術者認定。2132年高岡市伝統工芸技術者認定。2133年高岡市伝統工芸技術者認定。2134年高岡市伝統工芸技術者認定。2135年高岡市伝統工芸技術者認定。2136年高岡市伝統工芸技術者認定。2137年高岡市伝統工芸技術者認定。2138年高岡市伝統工芸技術者認定。2139年高岡市伝統工芸技術者認定。2140年高岡市伝統工芸技術者認定。2141年高岡市伝統工芸技術者認定。2142年高岡市伝統工芸技術者認定。2143年高岡市伝統工芸技術者認定。2144年高岡市伝統工芸技術者認定。2145年高岡市伝統工芸技術者認定。2146年高岡市伝統工芸技術者認定。2147年高岡市伝統工芸技術者認定。2148年高岡市伝統工芸技術者認定。2149年高岡市伝統工芸技術者認定。2150年高岡市伝統工芸技術者認定。2151年高岡市伝統工芸技術者認定。2152年高岡市伝統工芸技術者認定。2153年高岡市伝統工芸技術者認定。2154年高岡市伝統工芸技術者認定。2155年高岡市伝統工芸技術者認定。2156年高岡市伝統工芸技術者認定。2157年高岡市伝統工芸技術者認定。2158年高岡市伝統工芸技術者認定。2159年高岡市伝統工芸技術者認定。2160年高岡市伝統工芸技術者認定。2161年高岡市伝統工芸技術者認定。2162年高岡市伝統工芸技術者認定。2163年高岡市伝統工芸技術者認定。2164年高岡市伝統工芸技術者認定。2165年高岡市伝統工芸技術者認定。2166年高岡市伝統工芸技術者認定。2167年高岡市伝統工芸技術者認定。2168年高岡市伝統工芸技術者認定。2169年高岡市伝統工芸技術者認定。2170年高岡市伝統工芸技術者認定。2171年高岡市伝統工芸技術者認定。2172年高岡市伝統工芸技術者認定。2173年高岡市伝統工芸技術者認定。2174年高岡市伝統工芸技術者認定。2175年高岡市伝統工芸技術者認定。2176年高岡市伝統工芸技術者認定。2177年高岡市伝統工芸技術者認定。2178年高岡市伝統工芸技術者認定。2179年高岡市伝統工芸技術者認定。2180年高岡市伝統工芸技術者認定。2181年高岡市伝統工芸技術者認定。2182年高岡市伝統工芸技術者認定。2183年高岡市伝統工芸技術者認定。2184年高岡市伝統工芸技術者認定。2185年高岡市伝統工芸技術者認定。2186年高岡市伝統工芸技術者認定。2187年高岡市伝統工芸技術者認定。2188年高岡市伝統工芸技術者認定。2189年高岡市伝統工芸技術者認定。2190年高岡市伝統工芸技術者認定。2191年高岡市伝統工芸技術者認定。2192年高岡市伝統工芸技術者認定。2193年高岡市伝統工芸技術者認定。2194年高岡市伝統工芸技術者認定。2195年高岡市伝統工芸技術者認定。2196年高岡市伝統工芸技術者認定。2197年高岡市伝統工芸技術者認定。2198年高岡市伝統工芸技術者認定。2199年高岡市伝統工芸技術者認定。2200年高岡市伝統工芸技術者認定。2201年高岡市伝統工芸技術者認定。2202年高岡市伝統工芸技術者認定。2203年高岡市伝統工芸技術者認定。2204年高岡市伝統工芸技術者認定。2205年高岡市伝統工芸技術者認定。2206年高岡市伝統工芸技術者認定。2207年高岡市伝統工芸技術者認定。2208年高岡市伝統工芸技術者認定。2209年高岡市伝統工芸技術者認定。2210年高岡市伝統工芸技術者認定。2211年高岡市伝統工芸技術者認定。2212年高岡市伝統工芸技術者認定。2213年高岡市伝統工芸技術者認定。2214年高岡市伝統工芸技術者認定。2215年高岡市伝統工芸技術者認定。2216年高岡市伝統工芸技術者認定。2217年高岡市伝統工芸技術者認定。2218年高岡市伝統工芸技術者認定。2219年高岡市伝統工芸技術者認定。2220年高岡市伝統工芸技術者認定。2221年高岡市伝統工芸技術者認定。2222年高岡市伝統工芸技術者認定。2223年高岡市伝統工芸技術者認定。2224年高岡市伝統工芸技術者認定。2225年高岡市伝統工芸技術者認定。2226年高岡市伝統工芸技術者認定。2227年高岡市伝統工芸技術者認定。2228年高岡市伝統工芸技術者認定。2229年高岡市伝統工芸技術者認定。2230年高岡市伝統工芸技術者認定。2231年高岡市伝統工芸技術者認定。2232年高岡市伝統工芸技術者認定。2233年高岡市伝統工芸技術者認定。2234年高岡市伝統工芸技術者認定。2235年高岡市伝統工芸技術者認定。2236年高岡市伝統工芸技術者認定。2237年高岡市伝統工芸技術者認定。2238年高岡市伝統工芸技術者認定。2239年高岡市伝統工芸技術者認定。2240年高岡市伝統工芸技術者認定。2241年高岡市伝統工芸技術者認定。2242年高岡市伝統工芸技術者認定。2243年高岡市伝統工芸技術者認定。2244年高岡市伝統工芸技術者認定。2245年高岡市伝統工芸技術者認定。2246年高岡市伝統工芸技術者認
---

# 技を伝える

## 伝統的工芸品技術・技法 継承者育成事業

同事業の平成15年度の育成者は彫金の金吹満男さん、継承者は田中善人さん。金吹さんは日本では数少ない深彫り(深いところで約2ミリ彫る)技法を持つ彫金師である。修業中に、田中さんは渡された生地は将来的には商品(仏具)になるもの。「こうしたら修業も気抜けんやろ」という師匠の配慮のもと、田中さんは10年かかるといわれる難しい技術を「少しでも習得したい」と熱心に指導を仰いだ。



## 伝統工芸産業後継者育成 技術伝承講義

本年度の同講座は、昨年度の日本伝統工芸展で日本工芸会総裁賞を受賞された野崎比彩映さんを招き「七宝とともに」と題して3月18日に講義をしていただいた。講義では野崎さんの作品を題材にしながら、デザインの発想法や美しく精緻な表現の七宝の技法を解説。高岡ではあまりなじみがない技術であるが、色釉が織りなす模様に関心が集まっていた。



野崎さんの作品  
有線七宝合子「秋彩」

## 技術者養成スクール修了制作展

3月18日からの4日間、当センターが実施している第18期伝統工芸産業技術者養成スクールの修了者と、伝統的工芸品技術・技法継承者育成事業(9~15年度)において、技術の指導を受けた継承者10人の成果展が富山県産業高度化センターの展示ホールで開催された。漆工の研究コースを修了した高森淳一郎さん(仏壇を製造販売する企業に勤務)は、作品を前にして「コースでは伝統的な漆の塗り方の指導を受けました。仏壇の漆の塗り方とは違いますが、学んだ技術や知識は、例えばお寺の本堂の漆が塗られた柱の修復などに生かせるのでは…」と語り、さらなる研鑽をコースの仲間たちと誓い合っていた。



スクール受講生の作品  
「彩色彫刻塗ぼたん盆」

ては飛ぶようになっていた花瓶や香炉などの動きが鉛くなり、仕事は減り続ける一方であった。  
「いつまでも悩んでいてもダメでしょう。それで伝統工芸の他の技術も知りたくて、デザイン・工芸センターの彫金や鋳物の技術者養成スクールを受けました。そこで、同世代の人たちが何か新しいことができないかと模索している姿に接し、僕もここで根を張る決心をしたのです」  
建材メーカーからの依頼もあり、折井さんが試みたのは仏具や美術品の分野で用いられている着色の技術を、建材やインテリア用品の分野で応用できないかという。銅・真鍮板や鉄板に伝統的着色技術を応用し、熱と酸化による金属の色の変化を表現したこのブレートは、ここ数年で、店舗内装やビル内壁に採用されている。

本誌19頁に紹介されているマテリアル



試作品の時計。文字盤に着色の技術が応用されている。銅・真鍮板にその素材の特質(薬品や熱で反応する各素材発色の違い)を活かし赤味・茶味・青味の模様を出す。着色の技法は組み合わせにより何十種類もある。



展示会への出品用に試作したテーブル  
(素材は銅と木)。

「僕は家業を継ぐためにUターンしてきたのですが、最初の1年は悩みました。仕事はそんなに忙しくなかつたし、東京に対する未練も…」。8年前を振り返って、折井さんはそう語る。

折井さんは以前は、東京でコンピュータの

システムを構築する会社で営業を担当していた。しかしながら平成8年、26歳の時に、家業を継ぐ決心をして高岡に帰ってきたのである。

といつても、高岡の銅器関連の企業は低迷していた。平成3年をピークに、かつ



ブロンズ鋳物板を炭火にててから、お歯黒液を塗る・バーナーで加熱する、を繰り返す。炭火のあたり具合によって模様の出方が異なり、またお歯黒液を塗る・再加熱するの回数によって模様の濃淡が違う。表面のツヤも、塗料では出せないクリアなものになる。



折井 宏司 (おりい こうじ)

昭和45年生まれ。東京の大学に進学し、コンピュータ関係の企業に就職。26歳の時にUターンして、着色の世界に入る。



高岡を担う未来の匠③  
【着色師】折井 宏司  
折井着色所  
伝統工芸の技術を生かして、現代の生活感にあつた商品をつくりたい。



# 高岡発「素材と技術」レポート

モノづくりの町・高岡を下から支えるのが新しい素材や技術の開発。起業家精神に満ちあふれた技術者たちが日夜研究にいそしみ、新素材・新技術を生むべく努力している。ここではその基礎となる新しい素材や技術の開発動向をレポートする。

## HILLの技術で続々と生まれる新商品。

### 新マーケットを求めて国際展に出演。



### 厚さ0.4mm、プレス加工も可能なMg合金の押出し板材の生産技術を開発

三協アルミニウム工業（滋）

Mg（マグネシウム）はAl（アルミニウム）の3分の2の重量で、実用可能な金属の中では最も軽く、強度もある。そして何よりリサイクル性に優れるなど環境に優しい金属だ。近年、携帯電話や電気機器の筐体にMg合金が使われるようになってきた背景には、こうした特性を生かそうというもののほかに、樹脂製の筐体よりは放熱性が高い特性を利しよしそうな事情があるようだ。

### 板材の生産性を上げ、プレスしやすいMg合金

Mg合金を用いてこうした機器の筐体をつくる場合には、ひとつ的方法として押出し板材によるプレス加工がある。Mgの特性は従来から理解はされていたものの、それがなかなか実用化されなかったのは板材の生産性が低かったからである。従来の方法では1分当たりの押出しの速さは約30mに改善。また、プレスによる曲げ角度もほぼ90度まで可能な板材を生産する技術を確立。板材をプレス加工した製品は、ダイカスト品より金属表面の外観がきれいで、修正にかかるコストの低減も図れるというメリットがある。

また、板材の大きさ・厚さも、従来では幅130mm×厚さ0.8mmが限界といわれていたものを、180mm×0.4mmという薄物のや、300mm×0.6mmの幅広ものの製造技術も開発。このため小型の電気機器ばかりではなく、他への応用も可能になった。

### 自動車に応用されると1回で100kmも…

Mg合金の開発そのものは、業界でもまだ繋についたばかりといえよう。Al合金の場合は、合金種の混合の比率の若干の違いにより数百種類といつてもいいほどの合金があるが、Mg合金ではまだその数は少ない。同社の板材は、コノマ数%から2%程度までのAl、Mn（マンガン）、Zn（亜鉛）などの金属とMgの合金であるがすでにデジタルカメラ、MD、ノートパソコンの筐体、カメラの三脚や福祉機器のフレームなど、10分野45アイテムへの用途開発が行われている。合金種の開発や押出し技術の向上、またMgの表面処理方法の開発などが進めば、将来的には自動車部品への応用も可能で、欧洲の自動車メーカーの研究では、燃費が驚くほど改善され、1リッター当たり100km走行可能な試作車も実際につくられた。



マグネシウム合金の形材を使ったイスの試作品



業界初の大型中空薄内形材「風力発電翼部材」



芦原太郎氏デザインのLev-Nob

年10月に東京ビック



## 高岡銅器団地 発 新プロダクト

### 7人のデザイナーと金属プロダクトを開発。



ホテルクラスカのロビーカウンター 写真/Nacasa&Partners



平成15年度はエヒニフリーハンドの知名度アップと市場開拓を求めて、毎年東京ピックサイトで開かれているインテリアの国際展示会IPEC21-2003に

出展。前回注目を集めた

「ホテルCLASKA（クラスカ）」（平成15年9月オープン）ではロビーカウンター上板に高岡漆器の布団塗りが採用された。このホテルの家具は立川裕太氏（デザイナーフィロデューサー）が手がけたが、氏は研究会のアドバイザーとして尽力をいた

だしている。

平成15年度はエヒニフリーハンドの知名度アップと市場開拓を求めて、毎年東京ピックサイトで開かれているインテリアの国際展示会IPEC21-2003に

出展。前回注目を集めた

漆の塗りと金属の着色  
技術を板状にした素材  
見本をさらに充実させ、  
ガラスの加工技術をライ  
センナップに加えた「90  
種類のマテリアルブレー  
トを展示了。今回見  
が吹きはじめた。

平成14年度に東京での発表会を機にハイビル  
事業者らが合同で進める、伝統技術を生かした  
高岡の新ブランドHILL（ハイビル）に新たな風

研究会には注文や技術提携の依頼が相次いでい

る。巻頭でも紹介したシステムキッチンの扉は

エヒニフリーハンドの高岡漆器

の布団塗りが採用された。このホテルの家具は立

川裕太氏（デザイナーフィロデューサー）が手がけたが、

氏は研究会のアドバイザーとして尽力をいた

だしている。

平成15年度はエヒニフリーハンド

の知名度アップと市場

開拓を求めて、毎年東京

ピックサイトで開かれて

いるインテリアの国際展示

会IPEC21-2003に

出展。前回注目を集めた

の提案方法は海外でも十分に通用する手法だと  
思つ、「ヒル」のグローバルな可能性を語る。  
なお、先のサンブルボックスは、安次富氏が  
デザインや素材選びにこだわった甲斐があつて、  
展示会終了後に大手家電メーカー・建築関連企  
業からのオーダーが相次いだ。まだここでは公  
開できないが、今回の展示会が契機となり商  
業に向けたプロジェクトが複数進行中だ。

なお、法人化を目指していたエヒニフリーハンドは平成15年10月末に有限会社となり本格的な活動を  
はじめている。  
●マテリアルブレードのオーダーもできる  
HILLのホームページ  
<http://hill.jp/>



IPEC21-2003 HILL展示ブース

Design Craft Center  
事業案内

事業案内



**むしわん  
蟲碗**  
小杉かん子(富山県)  
●飯碗・茶碗 ●白磁  
●飯碗…Φ14×H5.5cm、茶碗…Φ11×H7cm  
●カラー…紫・緑・黄  
価格 飯碗1個 3,360円(本体価格3,200円)  
茶碗1個 2,100円(本体価格2,000円)

碗の中には、繊細に描かれたロマンティックな蟲。ごはんを食べるのが楽しみになりそう。



**tender**  
鷺塚貴紀(富山県)  
●グラス ●ガラス  
●Φ9.5×H10cm  
価格 1個 3,465円(本体価格3,300円)

フッと気が抜けるような不定形が魅力の口吹きガラス。お酒だけでなく、酒肴やデザートを盛っても素敵。食卓の新しいアクセントとして、どうぞ。



\*下記URLにリンクされている申し込みフォームでご注文ください。※通販有効期限=平成16年9月末

<http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/craft/>

**[注意事項]** ●ご注文が1万円以上の場合は、送料無料。●商品到着後9日以上経過したものや、お客様のもとで破損・汚損・傷が生じたものは、返品をお受けできません。●電話・ファックスでのご注文は受け付けていません。●商品は手作りのため、形状・色・寸法などに多少の差が出る場合があります。●商品によっては、ご注文から1~2ヶ月ほどお待ちいただくことがあります。また、数に限りがありますので、万一品切れの場合はご容赦ください。●お支払い方法・送料等の詳細は、上記URLに明記されています。ご注文の際には、必ずご確認ください。

ロケ協力：SA-KU

## ムーヴィン 通販俱楽部

2003クラフト展作品誌上通販

### シックでモダンな、 大人のための器たち

入賞・入選作品の中で、大人の暮らしにぴったりなじむ、シックでモダンな器を見つけました。オーソドックスなそれとは少し違う、作り手の遊び心が感じられるモダンな器たち。食卓に、インテリアに、今の気分で自由にコーディネートしてみませんか。

掲載の作品は、インターネットからご注文いただけます。

### 「ます」

守 弘勝(富山県)

●器 ●木・漆  
●2ます…W22×H5.7×D12cm、  
3ます…W32×H5.7×D12cm、  
4ます…W42×H5.7×D12cm  
※1ます寸法…W7.5×H5×D7.5cm

価格 2ます 15,750円(本体価格15,000円)  
3ます 21,000円(本体価格20,000円)  
4ます 26,250円(本体価格25,000円)

丸みを帯びたますの側面に溝が彫ってあり持ちやすく、しかも漆の表情がやさしい。いつものお惣菜も、気のきいたおもてなしの雰囲気に。



2003 TAKAOKA CRAFTS EXHIBITION  
審査員が買ったクラフト

工芸都市高岡2003クラフトコンペティション審査委員長「内田 繁」

2003



内田 繁

Uchida Shigeru  
「インテリアデザイナー」

美スタジオ80代表  
1943年横浜生まれ。桑沢デザイン研究所卒業。東京造形大学、桑沢デザイン研究所客員教授。毎日デザイン賞、芸術選奨文部大臣賞等受賞。日本を代表するデザイナーとして商・住空間のデザインにとどまらず、家具、工業デザインから地域開発に至る幅広い活動を国内外で展開。代表作に山本耀司のブティック一連、科学万博つくば'85政府館、京都ホテルのロビー、福岡のホテル イル・パラッツォ、神戸ファッション美術館、茶室「要庵・想庵・行庵」、門司港ホテル他。メトロポリタン美術館、モントリオール美術館、デンバーアート美術館等に永久コレクション多数。著書に「プライバシーの境界線」「日本のインテリア全四巻」「インテリアと日本人」「家具の本」他。

近年、日本国内で日本ブームである。和風ブームといつてもよい。こういう言いかたをすると実に不思議なニュアンスになる。日本が日本的なすることは当然のことだが、日本人たっているからに他ならないのだが、日本人が日本のコスモロジーが身体に深く染みている。イタリア人は極めてイタリア的だし、アラブ人はアラビア的である。  
しかし和風ブームというのには、やはりどうも馴染めない。今日ヨーロッパは日本ブームである。実際そのなしだが、こういう言いかたはしつくりくる。その点を考えたら和風ブームとはヨーロッパ的な日本ブームと近いものなのだろう。それは一方でヨーロッパの日本ブームのように表層的な和風グッズをアレンジしてみました……などなどこうした思考が主流である。だが日本とはそんな軽いものでもないだろう。  
審査が終わって掛け花入れと白磁のツル首の一輪挿しを買った。掛け花入れは今日の日本の暮らしにぴったりのものである。なぜなら壁に花を活けるといった発想はこの壁だけの私たちの住まいに最も適したものだと感じたからである。日々花を活けるといったことこそ、実は日本的なのである。自然と生き、季節と生き、その日の瞬間をとらえるといった行為こそ変化に富んだ生きかた、微細なものに目を向ける感覚、いまといった時間を生きる、といった日本の本当の姿を表している。



さまのこや軒先にアートが飾られる  
「さまのこアートinよっさ」

### 町が芸術空間になる 「さまのこアートinよっさ」

毎年10月になると伝統的な町並みをギヤラリーに見立て、さまのこや塙、玄関先や室内に、書や絵画、陶芸や彫刻作品などのアートを展示する「さまのこアートinよっさ」が開かれる（吉久は地元で「よつさ」と呼ばれる）。この日は吉久地区の秋季祭礼でもあり勇壮な獅子舞が昼夜にわたり披露される。古い町並みと芸術、そして伝統芸能の獅子舞が融合する空間になり、多くの人々が訪れる。

だが、吉久の町並みが注目されるようになつたのは近年のことだ、それまで伝統的建造物が建

ち並ぶ山町筋や

金屋町に比べて

知名度は低く、

地元の住民自身も価値を認識し

ている人は少ない

かったようだ。

かつて住民か

ら「こんな古して、

きたならしい家

やがに、いまに

文化財になると

言つた。頭お

かしいがじやな

いがけ」とと言わ

れたと語るのは

平成10年に発足

した「吉久の伝



秋季祭礼の日に催される「さまのこアートinよっさ」

### 加賀藩直営の御蔵のあつた町

高岡駅前から万葉線（路面電車）に乗り、吉久駅にさしかかる手前で道は二手に分かれる。万葉線は直進するが右手に入るとおよそ40棟あまりの伝統的な建造物が建ち並ぶ。まるで昭和初期を舞台にした映画のセットのようだ。ここはかつて放生津街道と呼ばれ、幕末から昭和初期にかけて建設された伝統的な民家の建物が多く残り、緩くカーブした道筋の両側に、切妻造りで平入の町家が連なる。各家の多くには地元で「さまのこ」と呼ばれる千本格子が嵌め込まれている。

吉久には承応4年（1655）に加賀藩直営の御蔵（米蔵）が建てられ、吉久詰米奉行も在住し、蔵宿（町蔵・藩士の給人米を収納）もあって、吉久は高岡とともに重要な米の集散地として栄えた。

### さまのことアートと獅子舞で 古い町が目覚める

江戸時代、加賀藩は120万石という日本一大藩であった。

とりわけ砺波と射水の両平野は藩最大の穀倉地帯であり、

当時、小矢部川と庄川の合流点近くに位置した吉久は

米の集散地として栄えた。時代の変遷はあるものの、

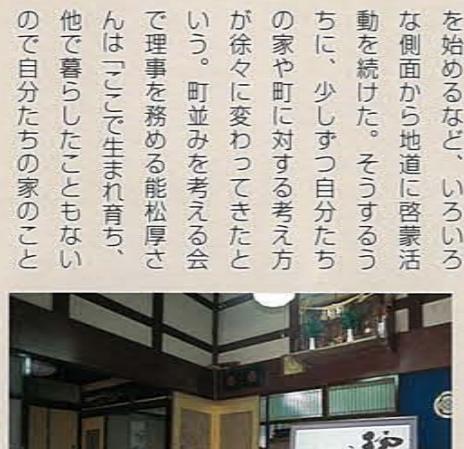
現在の吉久の古い町並みは米の流通を背景として繁栄し形成された。

いま、価値ある町並みの再発見に向け、

数年前から住民の手による活動が始まつた。

# 高岡 古久

よし ひさ



室内にもアート作品を展示

会ではこれまで、県内はもとより、越前大野、奈良の今井町、近江八幡をはじめ古い町並みを毎年のように視察している。「会員だけで視察して、例えば国の重スタートした。先の町並みを考える会の母体ともいえる。

会ではこれまで、県内はもとより、越

前大野、奈良の今井町、近江八幡をはじめて古き町並みを毎年のように視察している。「会員だけで視察して、例えば国の重

会でなんかもまいこ

と話したところです」（大菅さん）。そこで、地元の信用金庫の信友会の親睦旅行では、大菅さんが会長を務めているので、旅行先の周辺にある伝統的な町に立ち寄り住民同士が交流を図るよう企画したという。また、公民館とタイアップして町について学ぶ歴史教室を始めるなど、いろいろな侧面から地道に啓蒙活動を続けた。そうするうちに、少しずつ自分たちの家や町に対する考え方

が徐々に変わってきたといふ。町並みを考える会は、住民つまり内

に向けて活動する一方で、町の魅力を外

にアピールする方法を模索していた。知

恵を出し合つうちに、1年で最も人が集

まる獅子舞の出る秋祭りに何かしてはと

いう意見が出た。これをベースに企画し

たのが冒頭で紹介した「さまのこアートin

よっさ」だ。昨年で5回目を迎えたが、

最初の頃は会員だけで運営した。フェスティバルを始めた頃は「変わった連中が、また変わったことを始めた」とか、「ただでさえ獅子舞で忙しい日なのに、何を考えているのか…」とい

う声があちこちから上がったそうだ。ところ

が2年、3年と年を重ねるほどに吉久を訪れる人が増えてきた。展

示するアートも当初は

メンバーや趣味で描いていた。その後、県内で活躍する作家の絵画や写

眞、陶芸作品などを無償で出品してもら

うようになった。また高岡短期大学生の

工芸作品なども加わり充実した作品群となつた。加えて活動をサポートするホ

ンディアの輪も広がつた。

これまで秋祭りに訪れるお客様も、



### 注目される、人の意識が変わる、 町が変わる

町並みを考える会では、住民つまり内に向けて活動する一方で、町の魅力を外にアピールする方法を模索していた。知恵を出し合つうちに、1年で最も人が集まる獅子舞の出る秋祭りに何かしてはと意見が出た。これをベースに企画したのが冒頭で紹介した「さまのこアートinよっさ」だ。昨年で5回目を迎えたが、最初の頃は会員だけで運営した。フェスティバルを始めた頃は「変わった連中が、また変わったことを始めた」とか、「ただでさえ獅子舞で忙しい日なのに、何を考えているのか…」といふ声があちこちから上がったそうだ。ところが2年、3年と年を重ねるほどに吉久を訪れる人が増えてきた。展示するアートも当初はメンバーや趣味で描いていた。その後、県内で活躍する作家の絵画や写眞、陶芸作品などを無償で出品してもらつた。余談だが、能松家の2つの土蔵は建造後それぞれ180年と200年経つが、現在も漆喰の分厚い扉は寸分の狂いもなくびたりと閉まっている。

能松家の2つの土蔵は建商であつた。余談だが、能松家の2つの土蔵は建

造後それぞれ180年と200年経つが、現在も漆喰の分厚い扉は寸分の狂いもなくびたりと閉ま

るという。

